

日本の大きな三角祭祀線と出雲族



(2025.4更新)

●衝撃的な出雲口伝や出雲伝承が明かされた。日本のこれら大きな三角祭祀線は出雲族が作ったのか、出雲族が作ったものを天孫族が利用してきたのか…
出雲族についてまとめた。

【出雲族について】

出雲族は侵略しないインドの竜族 クナトノ族だった。およそ4000年前に牛族に追われ、日本を目指す。他の国と戦わないよう大きく北へ迂回しカムチャッカから北海道に南下し津軽に到着し拠点を作る。戦わずに暮らしていた縄文人に、さまざまな技術を伝えながら同化。1000年かけてしだいに南下し出雲が中心地となった。国王に推され出雲王国として日本全体を統治する。国王は大名持、副国王は少名彦と呼ばれた。北九州に住みついた一族はのちに宗像大社を作った。

しかし、渡来した天孫族徐福に武力で侵略され国譲り。大名持の大国主（王）も少名彦の事代主（副王）も洞穴に閉じ込められ殺され、御名方はゲリラ戦を展開し諏訪に後退し諏訪大社を創る。出雲国王 富族の長髓彦（事代主の子孫・富彦・大彦）の子孫らは大和葛木（奈良）に拠点を移し大和王国を作り賀茂家となる。しかし、徐福ら物部（神武東征）に追われ、のちに大阪の三島に移住し安倍と名乗り島だった地に三島神社を創る。さらに物部に追われ静岡の三島に移住し三島大社を創る。さらに追われ茨城の鹿島に移り建御雷神を祀り鹿島神宮を創る。日立の国と称す。今度は中臣氏（後の藤原氏）が鹿島神宮を奪って建御雷神を自分の氏神とした。

安倍一族は拠点を陸前（宮城）・陸中（岩手）に移し日高見国（荒覇吐国・安倍王国・アラハバキ水軍）を創る。アテルイ等が征夷大將軍の坂上田村麻呂にやられる。津軽の亀ヶ岡に都を移す。遮光器土偶は出雲族の女神アラハバキ神像。平安時代に征夷大將軍の源氏により安倍貞任・宗任兄弟は打ち取られる。

安部貞任の子 高星丸は津軽に生き延び、安藤（安東）を名乗り十三湊で安東水軍を作り大陸と貿易。宗任の子は北九州で松浦水軍となる。安藤家は鎌倉時代後半に北条執権の支配下に入り安部王国はついに滅亡。その後十三湊は津波に襲われ安藤家は衰退、秋田に逃れた一派は秋田水軍となった。

・出雲副王の事代主→富（鳥海）家 長髓彦→賀茂家→安倍（阿部）家→ 安藤（安東）家→秋田家

出典・出雲口伝・出雲伝承 他